



肆 第一五二一號其一

官房機密第二八〇號ノ二

昭和十年二月五日



陸軍大臣殿

海軍大臣



對馬要塞地帶新設立ニ之ニ件ヲ禁止制限解除區域

改正ニ關スル件回答

一月二十九日附陸密第五七號ヲ以テ照會ノ首題ノ件異存無之候

(終)

海軍







副官ヨリ各軍各師團長ノ謀長  
滿洲派遣師團ニ在リテハ  
通謀案

軍事諸般ニ直ル創意工夫ノ結果其成  
績良好ニシテ之ヲ全軍ニ普及シ軍事進  
歩ニ資スルヲ有利ト認メラルモアラハ左記  
要領ニ依リ調査、上未ル土月盡日迄ニ報告  
相成度

陸普第六三〇六號

昭和八年十月九日

調査要領

一、調査ノ範圍

昭和五年三月報告済以外ノモノニ於テ廣

同 高田 吉  
同 大久野 吉  
陸軍 田文 吉



軍事一般ニ關シ又之ヲ全軍ニ普及シテ  
軍事ノ進歩ニ資シ得ヘシト認メタル事

項ヲ網羅ス

二、調査ノ様式

概ネ左記ノ要領ニ依ル

1. 創意工夫セルモノノ件名

2. 一般ノ要領

目的、特徴及シテ其ノ創意工夫ノ

動機ヲ簡明ニ記載スルコト

3. 字真、圖面略解等ヲ便下スルモノ

之ヲ添付スルコト



4. 構造、作用等ニ関シ細部ノ説明ヲ

付スルコト

5. 經費ニ關係ヲ有スルモノニテリテハ保

セテ之ヲ附記スルコト

6. 其他特ニ必要ト認ムル件

7. 本件ニ關スル所管長及官ノ所見

備考  
本報告ハ一件毎ニ別紙ニ作成

且ツ部隊名ヲ記入シ二部宛呈

出スルモノトス

軍部ニ呈送スルモノハ  
軍部ニ呈送スルモノハ  
軍部ニ呈送スルモノハ



首 第二〇九四號 其

近謀第五四號

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル件通牒

昭和八年十二月二十三日

近衛師團參謀長 柴 平 四 郎

陸軍省副官 牛 島 滿 殿

十月九日附陸普第六三〇六號ニ據ル首題ノ件別紙ノ通提出ス



陸 軍



294



貳 第二〇九四

陸軍

參謀部 參發第貳貳壹五號

各部隊ニ於ケル創意工夫追加提出ノ件通牒

昭和六年三月廿六日 第一師團參謀長 廣野 太

陸軍省副官 牛島 滿

十二月二十二日附一師參發第二一九五號ヲ以テ提出セル  
首題ノ件左記ノ通追加ス

記

品目

距離方向計算器

創意部隊

創意工夫者

野重 一

同上

陸軍省 8.12.27 受324 無務課



式 第二〇九四 第五

參謀部 參發第貳壹九五號



陸軍

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ関スル件 通謀  
昭和八年三月廿貳日 第一師團參謀長 廣野 太  
陸軍省副官 牛島 滿殿

十月九日陸普第六三〇六號ニ依リ首題ノ件 別冊  
(二部)ノ通提出ス



別冊  
五



式第百九十四

仙 謀 第八四入號

各隊創意工夫ニ關スル件通牒

昭和八年二月廿日

第二師團參謀長上野良

陸軍省副官

牛島滿殿

十月九日陸普第百三十六號ニ依ル首題ノ件別冊ノ

通牒ノ



別冊  
五  
兵務

陸

軍



備 謀 第 四 七 號

各 部 隊 創 意 工 夫 關 ス ル 件 通 牒

昭和九年壹月貳參日

第 二 師 團 司 令 部

陸 軍 省 軍 務 局 兵 務 課 御 中

一 月 十 二 日 附 兵 務 發 第 四 號 依 ル 首 題 一 件 別 冊 通 送 付 入



吉田



送後付兼未ハカニ三本

別冊  
五  
五

陸 軍



昭和八年

武 第三師團

第三師團參謀第一六七三號

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ関スル件通牒

昭和八年七月廿八日

第三師團參謀長佐藤正三郎

陸軍省副官牛島 滿 殿

十月九日陸書第六三〇六號通牒ニ係ル旨題  
ノ件別紙ノ通牒ス



別紙  
又五  
陸軍省

陸軍



貳 第九四 号

陸軍省 第五四九號



陸軍

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ関スル  
件通牒



昭和八年十月廿六日 第四師團參謀長 井關隆昌

陸軍省副官 牛島 満毅  
十月九日附陸省第六三〇六號ニ依ル首題ノ  
件別紙ノ通牒ス

別紙  
五五六



或第百九十四號其十五

第五師團 參第五九號

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル件通牒

昭和八年十二月廿六日 第五師團參謀長 安岡正

陸軍省副官 牛島滿殿

十月九日陸普第六三〇六號通牒ニ係ル首題ノ件別紙目錄ノ通送付ス



陸軍





貳二〇九四號其七

第六師團司令部 參發第二七一號

昭和八年十二月廿六日 8.12.26

各部隊之於先創意工夫提出ノ件通牒

昭和八年十二月廿六日

第六師團參謀長佐々木吉良

陸軍省副官牛島滿殿

十月十九日附陸普第六三〇六號ニ依ル  
首題ノ件別紙ノ通提出ス

陸軍省 8.12.26 受 兵務課

別紙 五

角吉類八左記回覽中



昭和八年

貳二九四反

第七師團第六一九

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル  
件報告

昭和八年十月二十六日第七師團參謀長濱本喜三郎  
陸軍省副官牛島滿殿

昭和八年十月九日陸普第六三〇六號ニ據ル首  
題ノ件別紙ノ通り報告ス



陸軍



別紙  
九月五日  
吾山



貳 二九四九

第八師團 派謀弘第二四四號

各部隊ニ於テハ創意工夫事項呈出ノ件

昭和八年七月拾五日

第八師團參謀長久納誠一

陸軍省副官牛島 滿殿

十月九日陸普第六三〇六號通牒ニ依ル首題ノ件別冊ノ通呈出ス

別冊  
26

二部

陸軍省  
8.12.26  
兵務課

8.26

陸軍



式第二〇九四其三

留謀弘第一八號

各部隊ニ於テハ創意工夫ニ關スル件通牒

昭和八年三月二十六日

第八師團留守參謀高場損藏

陸軍省副官牛島 滿 殿

昭和八年十月九日陸軍省第六三〇六號通牒

一依ル首題ノ件別紙ノ通り通牒ス

追テ別紙ノ外創意工夫ニ關スル件ニ年式機関銃高射  
甲練習甲具、開接射擊用具、擬裝甲箱、田轉堅形  
印箱、練習用具、簡易銃條網折墨式透板、速者  
甲手箱等ノ了工輕易ナリト認メ  
通牒 七ツルニ付申添フ

又方

別紙

陸軍

軍省  
9.1.6  
榮324  
兵務課



第一、臨時祭委員以下任命

三月廿八日陸軍ニ在リテハ步兵大佐牛島滿以下十一名、海軍ニ在リテハ海軍大佐日吉慶以下八名ニ任命スル事ヲ決定シ、

武 第九師團長

九師參第七八九號

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル件報告

昭和八年十二月廿七日

第九師團長

陸軍大臣 殿

昭和八年十月九日陸普第六三〇六號ニ依ル首題ノ件別紙ノ通報告  
ス



陸軍

別紙  
昭和八年十月九日  
陸軍省



貳 第二〇九四 二六

九師參第七八九號ノ二

創意工夫ニ關スル件通牒

昭和九年一月六日

陸軍大臣殿

昭和八年十二月廿七日九師參第七八九號首題ノ件ニ別紙追加報告ス

第九師團

長



軍





8 臨時構築物（擴聲機ヲ含む）ニ關スル事項

至急

九師參第卅號

創意工夫ニ關スル件通牒

昭和九年一月廿三日

第九師團司令部

陸軍省軍務局兵務課御中

昭和九年一月六日九師參第七八九號ヲ以テ報告セシ首題ノ件ノ不足分トシテ別紙一部送付ス

陸軍省  
9.1.29  
兵務課



陸軍



別紙  
昭和九年一月六日  
陸軍省  
兵務課





合派少... 人員... 奉發關於普對軍十六三、議軍二〇、代蘇省警察

第十師參庶第五〇七號

創意工夫ニ關スル件通牒

昭和八年十二月二十三日

第十師團參謀長

加納 豐

陸軍省副官

牛島 滿 殿

十月九日附陸普第六三〇六號ニ依ル首題ノ件別冊ノ通提出ス



陸軍



陸軍大臣 荒木貞夫殿

留師参度第四五一號

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ関スル件報告

昭和八年三月拾八日

第十師團留守司令官 建川美次

陸軍大臣 荒木貞夫殿

十月九日附陸普第六三〇六號ニ依リ首題ノ件

別紙ノ通報報告ス



陸軍



2094



現品別冊 第二〇九四 二

第十一師團 謀第三五九號  
司令部

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル件通牒

昭和八年十二月十一日 第十一師團參謀長 三宅 俊

陸軍省副官 牛島 滿 殿

十月九日附陸普第六三〇六號首題ノ件別冊ノ通送付ス



陸軍



11050



裁  
二〇九四  
三

第十二師 參第一三〇一號  
團司令部

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル件報告

昭和八年十二月二十八日 第十二師團長 大谷 大男

陸軍大臣 荒木 貞殿

十月九日陸普第六三〇六號通牒ニ基ク首題ノ件ニ關シ別冊ノ通報

告ス



陸軍

別冊  
心方  
中  
日



式第二〇九日第其一日

第十四師 留參發第一二二四號  
團司令部

創意工夫ニ關スル件回答

昭和八年十二月廿七日 第十四師團留守參謀鯉發行

陸軍省副官 牛島 滿 殿

十月九日陸普第六三〇六號通牒ニ係ハル首題ノ件無之ニ付回答ス



原四



陸軍



維新殉難者一計八一四名ニシテ三月廿九日合祀仰出サレ之等各遺族ニ對シ合祀通知竝ニ參拜案内狀ハ三月三十日迄ニ發送セリ（維新殉難者一名ハ四月六日合祀仰出サレ即日發送ス）

式ニヨリ

第十四師 參發第七〇一號  
團司令部

各部隊ニ於ケル創意工夫事項提出ノ件通牒

昭和八年十二月廿一日 第十四師團參謀長 飯野庄三

陸軍省副官 牛島 滿 殿

十月九日附陸普第六三〇六號ニ依ル首題ノ件別冊ノ通提出ス

別冊  
印者註  
心方

陸軍省  
8.12.27  
受324號  
兵務課

第十四師團參謀長

陸軍



創  
二〇九四  
一九

第十六師司令部 參第九七號

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル件報告

昭和八年三月廿八日

第十六師團長蒲

穆

陸軍大臣赤松貞文殿

十月九日陸普第六三〇大通牒ニ依ル首題ノ件別冊ノ通リ報告ス

陸軍



別冊  
口方  
品公



式第二〇九〇

九師參第八五八號

創意工夫ニ關スル件提出

昭和八年三月五日

第十九師團長牛島貞雄

陸軍大臣荒木貞夫殿

昭和八年十月九日附陸普

第六三〇六號ニ依ル首題ノ件

別冊(二部)ノ通提出ス



陸軍



別冊  
凡五



貳  
二〇九四

8.12.23  
陸軍省

陸軍

三〇師參謀四五六號

各部隊之於今ノ創意工夫之賜スル件

昭和八年三月廿日

第二十師團參謀長 佐伯清

陸軍省副官 牛島 滿殿

十月九日陸省第百六三〇六號通報ノ係ル旨  
題ノ件別紙ノ通報告ス

陸軍省  
8.12.23  
受324  
兵務課

別紙  
口名  
兵務課



式  
二〇九四  
三

臺參甲第一四三號

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル件通牒

昭和八年拾貳月廿壹日 臺灣軍參謀長 大塚 堅之助

陸軍省副官 牛 島 滿 殿

陸普第六三〇六號通牒ニ係ル首題ノ件調査ノ結果適當ト認メラル  
モノナキニ付通牒ス  
追テ別紙ハ右調査ニ依ルモノナルモ參考迄ニ一部送付ス



陸  
軍





ハ、皇族御参拜、軍隊参拜（約二）  
ニ依リ陸軍省新聞班ニ於テ行ヒタ

式 二〇九四 三二

朝鮮發第四二七 號

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル件

昭和八年三月廿八日

朝鮮軍参謀長大串敬吉

陸軍省副官 牛島 滿殿

十月九日附陸普第六三〇六號通牒ニ依ル旨  
題ノ件別紙ノ通提出ス



陸軍



四月廿七日

臨時祭中勅使

(十社)

(口)新聞發表ハ委員ノ提供セル資料ニ

「ラジオ」放送ニ就テ

前 九四

關參發第一一九八號

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル件

昭和八年十二月二十七日

關東軍參謀長小磯國昭

陸軍次官柳川平助殿

十二月二十三日附關參一發第一一九四號ヲ以テ提出セル首題ノ件一左記ノ通追加提出ス

左記

- 一 熔接鐵尾整 騎兵第一旅團騎砲兵中隊
- 一 酷寒氷結時於ケル繫馬法 同 右



(大連滿蒙堂納)



貳 第二〇九四 三五

關參發第一一九四號

各部隊於ケル創意工夫ニ關スル件

昭和八年十二月二十三日

關東軍參謀長小磯國昭

陸軍次官柳川平助殿

昭和八年十月九日附陸普第第六三〇六號通

牒ニ係ル首題ノ件別紙ノ通提出ス



陸軍省  
9.1.6  
受324  
兵務課

大連滿洲電信

別紙  
昭和八年十月九日

陸軍



一、日本... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、... 十一、... 十二、... 十三、... 十四、... 十五、... 十六、... 十七、... 十八、... 十九、... 二十、... 二十一、... 二十二、... 二十三、... 二十四、... 二十五、... 二十六、... 二十七、... 二十八、... 二十九、... 三十、... 三十一、... 三十二、... 三十三、... 三十四、... 三十五、... 三十六、... 三十七、... 三十八、... 三十九、... 四十、... 四十一、... 四十二、... 四十三、... 四十四、... 四十五、... 四十六、... 四十七、... 四十八、... 四十九、... 五十、...

式 第二〇九回 三七

關參發第 二 號

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル件

昭和九年一月四日

關東軍參謀長小磯國昭

陸軍次官柳川平助殿



十二月二十三日附關參一發第一一九四號ヲ以テ  
提出セル首題ノ件左記ノ通追加提出ス

左記

- 一、截 革 器 (直線用) 騎兵集團司令部
- 一、試製十ワット級短波無線電信送信機
- 一、八七式一號無線電信機發動機氣化器保温裝置 電信第三大隊

(大連海軍堂納)



兵務

第八〇〇  
第九四六

天參普第一號

各部隊ニ於ケル創意工夫ニ關スル件報告

昭和九年一月十日

支那駐屯軍參謀長 菊池門也

陸軍省副官 牛島 滿 殿

首題ノ件別紙ノ通提出ス

陸軍省  
9.1.22  
陸軍省  
9.1.22  
天務課

陸軍

別紙  
心  
山

陸軍省  
天務課



教一課發第 五〇七 號

各學校ニ於テハ創設ニ支テ商件通牒

昭和八年十月二十日 教育總監部 第一課

陸軍省事務課御中

首題、件別冊、通牒

陸軍省事務課ニ依リテ

別冊  
事務課  
受取

陸軍省  
9.1.6  
受取  
兵務課

陸軍省  
事務課

陸  
軍



料ヲ免除セラル

長野縣南安曇郡梓村大字梓九三〇番地

故歩兵上尉兵 川村一六世

20

保存期限

決裁指定

決行指定



政務次官 回付 決裁(前)連帶 後(課)名

受領番號 壹係一六三一號

起元應(課)名

東京瓦斯電氣工業株式會社

件名 保護自動車資格有効期限延期並名称変更ノ件

大臣

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官 官房御用掛

主務課員

審案 筆記者

主務局長 受領番號 整動危第 98 番  
昭和 年 月 日  
昭和 年 五月 廿七日  
昭和 年 月 日  
昭和 年 五月 廿七日

連帶 帶

局長 局長

長課 長課

長

官

永久甲 納金

決行(決裁)後 回覧(課)名



陸普

東京瓦斯電氣工業株式會社取締役社長 松方五郎 一指令

五月二十三日附出願ニ係ルT.G.E.N型保護自動車ノ資格有期限昭和十年六月五日ヲ昭和十二年六月五日<sup>延</sup>延期迄該自動車ノ名称変更ノ件許可ス

陸普第三〇〇五號昭和十年五月廿八

告示案

陸軍省告示第二十五號 五月二十日官報掲載

陸軍省告示第 號

昭和五年~~十月十日~~陸軍省告示第十八號ニ依リ資格檢定證書下付ノ旨告示シタル左記自動車ニ對

官報照合

並進兵士善具 武村一夫

尋理淵南安總務科大宰科止三〇番

陸軍省告示第二十五號



シ軍用自動車補助法施行細則第十八條第七項ニ依リ其  
 ノ有効期限昭和十年六月五日ヲ昭和十二年六月五日ニ  
 改定シ本自動車ノ名称ヲ箇今「方よだQ型」ニ改稱ノ件  
 認可セリ  
 TGEN型

昭和十年 月 日

陸軍大臣

自動車ノ製造者

東京市大森区入新井二丁目番地  
 東京瓦斯電気工業株式会社

|         |         |
|---------|---------|
| 自動車ノ種類  | 自動車ノ種類  |
| 甲種六輪自動車 | 乙種六輪自動車 |
| TGEN型   | TGEN型   |

陸軍





陸軍大臣 林銑十郎殿  
陸軍省 第一〇三三

保護自動車資格有効期限延期願



昭和五年六月六日檢定證第三一號ヲ以テ資格検査ニ合格セルTGEN  
型保護自動車（昭和六年九月三日改造許可ノ分）ノ資格有効期限ヲ  
昭和十二年六月五日迄延期方願出度候ニ付テハ何卒特別ノ御詮議ヲ  
以テ御許可被爲下度此段奉願上候也

追テ爾今本自動車ヲちよだQ型ト改稱ス

昭和十年五月二十三日

東京瓦斯電気工業株式會社

取締役社長



松

方

五

郎



陸軍大臣 林銑十郎殿







七 經 費 決 算  
受 入 部

保存期限

決裁指定

決行指定

局長任

牛島

政務次官 回付 決裁 前連帶  
後課名

受 番 號 領 件 名  
壹 第 一 四 四 六 號  
靜 岡 縣 網 代 下 田 間 工 事 寫 真 撮 影 二 關 ス ル 件

起元應(課)名

鐵道省熱海建設事務所長

永久甲 野村

決行(決裁)後  
回覽課名

防備

本

印

審案  
筆記者

書記官

參與官

政務  
次官

次官  
委

主務  
局長

高級  
副官

主務  
課長

主務副官  
官房御用掛

主務課員

主務局長  
號番  
軍事老 第三六二號

受領  
昭和 年 月 日

提出  
昭和 年 月 日

受領  
昭和 年 月 日

大臣  
房官  
了結  
昭和 年 月 日

連帶

決行後  
行覽

局長

局長

長課

長課

久米

長

長



副官ヨリ鐵道省熱海建設事務所長宛回答案  
五月六日附熱建第回二三號ヲ以テ參謀總長宛照  
會首題ノ件差支無之ニ付承知セラレ度

陸普第二八九九號 昭和十年五月廿二日



受  
入  
附  
録  
費  
共  
載















陸軍省 第一五九六號

西商第一三一號

昭和十年四月十八日



北海道廳

北海道廳長官 佐上 信

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿



要塞地帯地圖發行認可ニ關スル件  
管下北海道工業試驗場ニ於テ有用鑛產物調査報告附圖トシテ添附別紙ノ通  
發行致度候條認可方御取計相成度



至急 御意見承り度

軍務局軍事課

五月二十三日

參謀本部 藤 御 中

認可ノ旨降下ナリ  
及ニ由也ガハハ年終上  
此ノ件通宜安也  
參謀本部



軍事

陸軍部 第一五九六號



原書類ハ左記回覽中  
主務課  
回覽課

第 號

電報譯

五月三日 午前午後

分發  
分著

次 官宛 發信者 北海島長官

四月十八日附要塞地帯下地回發行、件認可方至  
急取討ヒシ乞フ

陸軍



陸軍軍樂制八四月廿六日以送込、並交互出書ス  
 正軍 樂 制

保存期限

決裁指定

決行指定

牛島

次官

政務次官 回付 決裁前後連帶課名 軍事課

受領番號 陸軍第一七二二號

起元應(課)名

田中 助 治

件名 八幡浜市街地圖發行ニ関スル件

大臣 委

政務次官 次官 主務局長

代

局長

次官

參與官

高級副官 主務局長

牛島

局長

書記官

主務副官 官房御用掛

主務課員

審案 筆者

主務局長 受領番號 秘第陸陸號  
 提出 昭和 年 月 日  
 受領 昭和 年 月 日  
 了結 昭和 年 月 日

決行後(裁決) 覽回

局長

局長

長課

長課

山崎

久米

小島

山崎

山崎

永久甲 昭彦

陸軍 10.0.18 軍事課

決行(決裁)後

陸

軍



陸普

副官より出願人へ通牒(曹隊要塞司令部經由)  
五月二十六日附出願首頭ノ件許可セラレタル  
ニ付通牒ス

陸普第三六四四號

昭和十年六月廿七日



五軍 樂 隊

陸海軍軍樂隊ハ、四月廿六日以後左ノ通交互出場ス



四月廿七日臨時祭

午前 陸軍戸山學校軍樂隊  
午後 海軍軍樂隊

一、發行者住所氏名  
八幡濱市街地圖發行三升許可願

愛媛縣八幡濱市濱田橋通  
一三五五番地第一愛郷社出版部

田中 助治

軍事

二、發行日 昭和十年五月十八日  
三、發行部数 八百部  
四、發行目的

愛媛縣八幡濱市八昭和十年二月  
十一日ヨリ市制實施相成リ候處左

印刷

海軍省  
10.6.4  
購

電  
10.31



市ノ全國的宣傳ノ如キ未ダ一回モ行  
 ハレ居ラザル状態ナルニ鑑ミ愛郷社  
 出版部ノ事業トシテ市祭展ノ一助  
 トナスベク市ノ紹介宣傳用トシテ新  
 興八幡濱市ノ横顔ト題スル冊子  
 ヲ發行仕ルベクコレガ附録トシテ  
 八幡濱市街地圖ヲ添付致シ度キ  
 計劃ニ有之候  
 右冊子發行ノ目的ニ付テハ別紙添付  
 書類第一號ヲ新興八幡濱市ノ

287

四月廿三日 齋報

千翁 齋軍 軍樂 齋  
 千前 齋軍 山學 齋軍 樂齋



橫顔刊行に於て並ニ八幡濱市長  
職務管掌地方事務官武智真一  
殿ノ八幡濱市街地圖使用目的証明  
書ヲ御検閲相成度ク願上候

五、頒布ノ範圍

新興八幡濱市の横顔ハ無料ニテ  
日本全國ノ各省、縣廳、市役所、  
商工會議所並ニ愛媛縣内各町役場、  
愛媛縣西宇和郡内各町村役場、  
商工會、青年團長、處女會長ニ



配付シ殘餘ノモノハ八幡濱地方ノ希  
望者ニ對シ有料ニテ販賣致シ度キ  
計劃ニ有之候

右ノ事情ニ有之 豊豫要塞司令部ノ  
御管轄ニ屬スル三崎半島畧圖ノ分ハ  
別紙添付第二號寫ノ通り豊豫要  
塞司令部ヨリ御許可相成リ居リ候  
八幡濱市街地圖ニ付テハ秘密地圖ノ區  
域ニ屬スル御規則アル事ヲ辨ヘズ別紙  
添付第三號「八幡濱町勢一覽」裏

建安府拜觀人員

七七九

新宿御苑拜觀人員

二〇三〇（七八〇戸）



包裝シ各戸ニハ簡宛交付スルノ準備ヲ爲ス

新築八幡濱市街及附近地圖

面ノハ八幡濱町市街及附近地圖ヲ基礎ト  
シテ別紙添付第四號ハ新興八幡濱市  
の横顔ハ附録ノ通りハ八幡濱市街地圖  
ヲ復寫仕リ候處其後豊豫要塞  
司令部及ヒ松山憲兵分隊ヨリ陸軍  
大臣閣下ノ御許可ヲ要スベキ旨御  
達示ニ預リ恐縮仕リタル次第ニ有  
之候然ル上ハ現在印刷ヲ了シタルハ  
幡濱市街地圖全部ヲ廢棄シ更ニ  
豊豫要塞司令部及ヒ松山憲兵分







一、遊奇根八、卯年八、成之、財對、七、海、祭、轉、藍、冠、村、願、祖、十、三、辨、本、校、部、果、七、外、七、文、リ

願候也

昭和十年五月二十六日

愛媛縣八幡濱市濱田橋通

一三五五番地第一

出願人 田中 助治



陸軍大臣林銑十郎閣下



一、遺族接待ノ業務ハ豫メ細部ノ實施要領ヲ定メ實施セリ  
 二、受付及記念品等ノ交付

保存期限

決裁指定

決行指定

次官

第一四二番

政務次官 回付 決裁後前連帶課名 軍事課

受領番號 參第五〇七號

起元應(課)名

關東州内務部長

件名 關東州防禦管造物地帯内地圖模寫ニ関スル件

大臣

政務次官

次官

主務局長

橋本

代

高級副官

主務課長

牛島

長

書記官

主務副官  
官房御用掛  
計掛

主務課員

小笠原

久米

審案  
筆記者

主務局長 受領番號 參第五〇七號

領受 昭和 年 月 日

提出 昭和 年 月 日

領受 昭和 年 月 日

了結 昭和 年 月 日

連帶局長

決行後(裁決)覽局長

長課

長課

永久甲

回決(課)後

陸軍







防備

~~防備~~

旅要地第三五號

陸軍大臣 林 銑十郎殿

防禦營造物地帯内ノ地圖模寫ニ關スル件申請

昭和十年六月四日

旅順要塞司令官 田 中

陸軍大臣 林 銑十郎殿

昭和十年四月十一日關内土第一〇七四號ニ依リ關東州廳内務部長ヨ

リ本職宛協議セル別紙首題ノ件差支ナキ意見ニ付認可セラレ度昭和  
七年一月二十日陸普第五二〇號ニ據リ申請ス

別紙  
陸軍大臣  
林 銑十郎殿  
陸軍大臣  
林 銑十郎殿

陸軍大臣 田中 10.6.10

陸軍大臣 田中 10.6.11

軍







陸普

海軍大臣へ回答

五月十八日附官房第ニ一六〇號照會首題  
ノ件與存無之

追テ栗田村管内片島崎(田井西方約一軒)及獅子崎ノ地區ハ要塞地帯第七條第ニ項ノ區域ト一致セシムル様配慮相煩度申添フ

陸普第三七一七號 昭和十年七月一日

午後十二時二十分終了ス拜觀後ハ逐次ニ自動車ニ依リ明治神宮外苑水泳場  
ニ輸送シ他ノ拜觀セサル遺族ヲ併セ御苑拜觀ヲ準備セシム

此日天候良好侍從武官ヨリ懇切ナル説明アリ又退出ノ際各人御煙草及明治



防備

官房第二一六〇號

昭和十年五月十八日

陸軍大臣殿

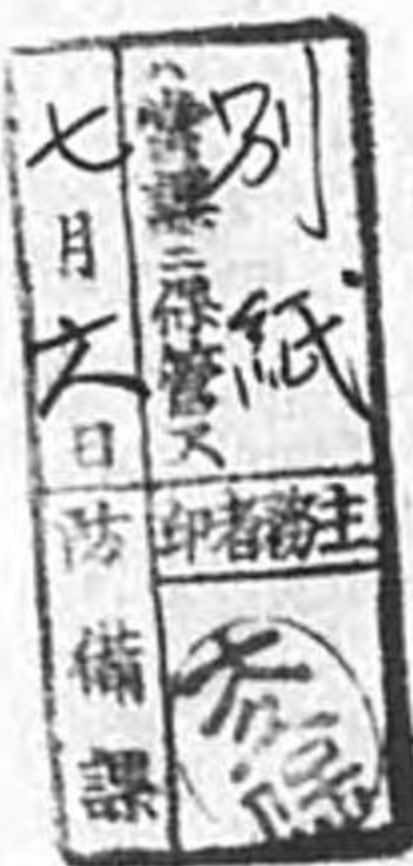
海軍大臣



大正十二年勅令第五十七號中改正ノ件照會

大正十二年勅令第五十七號中舞鶴要港境域改正ノ件別紙ノ通閣議ニ提出致  
度候條御異存ノ有無承知致度

(別紙添)



(終)

海軍



天皇ノ建安府ニ關スル御製ヲ拜受シ一同深ク皇室ノ殊遇ニ感激ス  
 六新宿御苑拜觀(同日)

保存期限

永久

決裁指定

次官

決行指定

牛島

第 六 号

政務次官  
 參與官 回付

決裁前後連帶  
 課名

課長

課長

課長

決行(決裁)後  
 回覽課名

受領番  
 號

卷第二二一四號

起元廳(課)名

外務省

件名

臺灣島附近遊覽  
 件

大臣  
 委

次官

局長

主務局長

課長

主務課長

主務課員

高級副官

主務副官

主務副官  
 官房御用掛

審案  
 筆者

|        |       |      |    |         |            |    |      |               |      |          |
|--------|-------|------|----|---------|------------|----|------|---------------|------|----------|
| 房官臣大   |       | 課局務主 |    | 大臣<br>委 | 局長<br>主務局長 | 次官 | 高級副官 | 主務副官<br>官房御用掛 | 主務課員 | 審案<br>筆者 |
| 了結     | 領受    | 出提   | 領受 |         |            |    |      |               |      |          |
| 昭和     | 昭和    | 昭和   | 昭和 |         |            |    |      |               |      |          |
| 年      | 年     | 年    | 年  |         |            |    |      |               |      |          |
| 七月二十日  | 七月十八日 | 月    | 月  |         |            |    |      |               |      |          |
| (裁決)行決 |       | 帶連   |    |         |            |    |      |               |      |          |
| 覽回後    |       | 長局   |    |         |            |    |      |               |      |          |
| 長局     |       | 長局   |    |         |            |    |      |               |      |          |
| 長課     |       | 長課   |    |         |            |    |      |               |      |          |

左  
 尾



陸普 次官より外務次官へ通牒

七月四日附取二普通第二八號首題ノ件中當省関係事項ニ對スル意見左記ノ通ニ付承知相成度

左記

陸普第四一三〇號 昭和十年七月十八日

澎湖島ニハ軍事上同島方面航海者ニ對シ貽風避難所ヲ設置スルハ不適當ナリ

次官より海軍次官へ通牒

首題ノ件ニ関シ七月六日官房第二九〇三號ニヲ以テ通牒ニ接シタル處當省ニ於テハ貴意見ニ同意ニシテ別紙ノ通外務次官宛通牒ニ置キタルニ付

畫越（蘇安海陸軍省ニ關スル）ハ千前十部三十代迄ニ於テ蘇水將帥購置品ニ集

六條節陸軍省（同前）

天皇ノ御安御ニ關スル御慶ヲ拜受シ一同樂々皇室ノ榮耀ニ想慕ス



承知相成度

陸普第四一三〇號

昭和十年七月十八日

次官より台湾軍參謀長へ通牒

首題ノ件ニ関シ外務次官より別紙甲號ノ申

越<sup>ニ</sup>對シ乙號ノ通牒<sup>ニ</sup>置キタルニ付承知相成

陸普第四一三〇號 昭和十年七月十八日



陸軍



第三二四號其(一)

官房第二九〇三號ノ二

昭和十年七月六日

陸軍次官殿

海軍次官



澎湖島附近避難港ニ關スル意見ノ件申進

六月二十七日外務歐二普通合第二七二四號照會ノ首題ノ件中當省關係事項ニ對スル意見左記ノ通ニ候條御了知相成度

記

澎湖島内ニ於ケル港灣ニシテ避難ニ適スルモノハ總テ軍事上重要ナルヲ以テ何レモ之ヲ避難港トシテ開放スルノ意志ナシ



(双文館納)

海

軍(終)



軍事

防備

急

陸軍省 領 壹第 三二四 號

歐二普通第二一八號

昭和十年七月四日

陸軍次官 橋本虎之助 殿

外務次官 重光

臺灣寄港ノ英國船ニ關スル件

本件ニ關シ今般在本邦英國大使ヨリ別紙寫(A)號ノ通申越ノ次第有之タルヲ以テ右ニ對シ別紙寫(B)號ノ通回答致置タルニ付テハ委細右ニテ御諒承相成度

昭和十年七月五日 陸軍省 大臣 官 前

別紙添付

昭和十年七月五日



外務省

10.2

一 存 無 之

Handwritten notes in vertical columns, including '衛島ヲ遊難境トシテ開放スルノ' and '七月四日'.

Handwritten notes on the left side, including '浙湖島ヲ遊難境トシテ開放スルノ' and '防備課'.





# 寫

歐二普通第一一五號

昭和十年六月二十七日

在本邦

英國大使館

外務省

帝國外務大臣ハ、在本邦英國大使閣下ヨリ、昭和十年六月十九日附「エイドメモアール」ヲ以テ、(一)、既往數ヶ月間ニ外國船舶ノ臺灣澎湖島ニ於ケル不開港場入港ニ依リ釀成セラレタル事件ニ願ミ英國政府ハ航海者ニ對シ新規指令ヲ公布スルニ決シタルモ右指令周知ニハ相當期間ヲ要スル次第ニ付、近キ將來ニ於テ萬一英國船舶カ天候不良ノ爲不開港場ニ入港ヲ餘儀ナクセラルル場合ニハ帝國關係官憲ニ於テハ之ヲ許容アリ度旨、**並ニ**臺灣海峽澎湖島最寄ニ於テハ厦門以外ニ開港場無之ヲ以テ同島方面航海者ニ對シ颶風避難所ヲ設置アル様希望スル旨ノ申入レアリタル次第ヲ諒承セリ帝國政府ハ(一)ニ

外務省



付テハ不開港場入港ノ船舶ニ對シテハ關係法規ニ依リ律スヘキ次第  
ナル旨竝ニ(二)ノ趣旨ハ之ヲ關係官廳ニ移牒シ置タル旨、同大使閣下ニ  
回答スルノ光榮ヲ有ス。



日  
大  
新  
遺  
族  
舊  
遺  
族  
特  
別

拜啓

本使ハ左記ノ件ニ関シ閣下ノ御高配ヲ懇請致シ候英國  
政府ハ過去數ヶ月間ニ於テ外國船舶カ已ムヲ得サル事情  
ニ由リ台灣及澎湖島ニ該地方官憲ノ嫌疑ヲ惹起シタ  
ル数件ヲ承知致居候、英國政府ハ現在ノ航海心得カ明  
確ヲ致クノ結論ニ到達シタルヲ以テ航海者ニ對シ新ニ注  
意ヲ與フヘキ手續ヲ採リタルモ極東海上ニ於ケル英國  
貿易船舶ノ全船長カ該新規則ヲ知ル迄ニハ必然暫時  
ノ猶豫ヲ必要ト致シ候  
依テ英國政府ハ英國船舶カ近キ將來ニ於テ再ヒ暴風ノ爲  
不開港場ニ避難スルノ已ムナキ場合アルニ於テモ所管日本

陸  
軍



官憲ニ於テ右事情充分酌量セラレシコトヲ希望スル次第  
ニ候、目下最寄開港場ハ澎湖島ヲ距ル九十五哩ノ處  
ナル爲、颶風及悪天候ノ屢々襲来スル、台湾海峡並近海  
航行船舶ノ爲ニ澎湖島ニ於テ一ノ颶風遭難港ノ供与セラ  
ルルヲ望ハヤ切ナルモノ有之、英國政府ハ日本政府力出来得  
ハクシハ右申出ラ應諾セラレ度備ニ御願申上候  
一九三五年六月十九日



AIDE-MÉMOIRE.

---

His Majesty's Ambassador presents his compliments to His Imperial Japanese Majesty's Minister for Foreign Affairs, and has the honour to invite His Excellency's attention to the following matter.

In the past few months several cases have been brought to the knowledge of His Majesty's Government in which foreign ships have been forced by circumstances to enter closed ports in Formosa and the Pescadores and have thereby aroused the suspicion of the local Authorities.

His Majesty's Government having come to the conclusion that the existing sailing directions are not sufficiently explicit have taken steps to issue fresh Notices to Mariners, but some time must necessarily elapse before all Masters of British Ships trading in Far Eastern Waters are aware of these new regulations. His Majesty's Government trust therefore that the competent Japanese authorities will make full allowance for this fact should any British ships in the near future again be compelled to seek shelter in a closed port under stress of weather.

At



At present the nearest available open anchorage to the Pescadores is Amoy, distant 95 miles. In the interest therefore of vessels passing through the Formosa Channel and adjacent waters where typhoons and bad weather are frequently experienced, it is greatly to be desired that a typhoon anchorage should be allotted to shipping in the Pescadores and His Majesty's Government very much hope that the Japanese Government may find it possible to comply with this suggestion.

June 19th, 1935.







(陸 普)

副官ヨリ警保局長宛回答案

首題ノ件ニ関シ本月十三日附警保局外發乙  
第一三三號ヲ以テ整備局長宛照會ノ  
趣了承當省トシテハ送付セシメサルヲ  
可トスル意見ニ付承知相成度

追テ別添報告書及氣象年報用齊ニ  
付海軍省軍務局長宛回送致置タル  
ニ付申添フ

(陸 普)

陸普第四二九九號 昭和十年七月卅日

副官ヨリ海軍省軍務局長宛通牒案  
首題ノ件ニ関スル別添書類「地震研究報  
告書及北海道氣象年報」用齊ニ付回送ス

陸普第四二九九號 昭和十年七月卅日



省契

軍省 壹第 二三五二 號

警保局外發乙第一三三號

昭和十年七月十二日

内務省 警保局

陸軍省 整備局長殿

地震竝氣象調查書交換ニ關スル件

本件ニ關シ北海道廳長官ヨリ別紙寫ノ通稟申アリタルニ就テハ添付書類(地震研究報告書及北海道氣象年報)送付ノ可否ニ付貴見ヲ承リ度此段及照會候也

追而貴省(陸軍省)御用濟ノ節ハ海軍省軍務局長殿宛御回送相煩度

内務省

7.23 前午 大臣官

10.5.20 軍事課

10.7.19 防備課

10.7.13 第430號 動員課



本書受領ノ上受付書號ヲ  
審査ノ記入被下度  
官房從後檢  
警保局動員課



餘興掛ノ業務ハ例大祭ヲ通シ四月廿六日ヨリ五月一日ニ至ル六日間實施シ餘

保存期限

決裁指定

決行指定

牛島

次官

政務次官 回付 決裁前後連帶課名 軍事課

永久田 甲 野 係

陸軍省 10. 31 未

決行(決裁)後 回覽課名

受領番號 壹受第 一九七九號 其一

起元廳(課)名

德島地方委員會

件名 要塞地帯及秘密地圖、謄寫圖檢閲ノ件

大臣 委

政務次官

參與官

書記官

審案 筆記者

主務局長

主務課長

主務課員

次官

高級副官

主務副官 官房御用掛 計

主務局長

受領

昭和 年 月 日

連帶

局長

課長

大臣官房

了結

昭和 年 月 日

決行(決裁)後 回覽

局長

課長

由良第 八九號

牛島

牛島

久米

牛島

牛島

陸

軍



陸普

副官ヨリ由良要塞司令官、通牒

八月二日附由地第ニ九四號提出ノ首領ノ件  
ハ檢閲ノ結果支障無也ニ付依命通牒ス  
追テ地圖上部ニ記録シアル注意書中第一項ノ「秘  
密地圖」トアルヲ「本圖」ト改メラレ度申添フ

陸普第四六二七號 昭和拾年八月拾九日



興替全員之ニ照会サリ其狀既夫ハ成シ

第八、余 思



防備

秘

危 第一九二九號 其一

由地 第二九四號

昭和 10.8.5. 陸軍大臣

陸軍省 10.8.5. 防備課

陸軍

昭和拾年八月貳日

陸軍大臣 林 銑十郎 殿  
由良要塞司令官 森田 豊吉 轉

要塞地帯及秘密地圖謄寫ニ關スル件  
本年七月三日附陸普第三七八ニ號ヲ以テ都市計畫  
德島地方委員會ニ對シ首題ノ件許可相成シ處八  
月二日謄寫完了セシニ付報告ス  
追テ該謄寫圖一部檢閲ノタメ提出可致ニ付用濟後  
燒却相成度申添候

別紙  
九月一日  
防備課

1979



四道樂堂ニ付テハ齊ハ尙邊

千Eリ千餘四割ニ至正割ニ至ハ間道樂堂ニ付テ奉陪ニ數日盜成ニ對スル

保存期限

決裁指定

決行指定

牛島

次官

政務次官  
參與官  
回付  
決裁前連帶  
後課名  
軍事課

決行(決裁)後  
回覽課名



起元廳(課)名

都市計畫委員會

件名  
西臺地帯及秘密地圖區域地形圖謄寫ニ関スル件

大臣

委

政務  
次官

次官

主務  
局長

參與官

高級  
副官

主務  
課長

書記官

主務副官  
官房御用掛

主務課員

審案  
筆者

審案

主務局長課

番號  
由良第八八號

受領  
昭和 年 月 日

提出  
昭和 年 月 日

受領  
昭和 年 月 日

了結  
昭和 年 月 日

連帶

局長

局長

長課

長課



陸

軍



陸普

副官より都市計画徳島地方委員会委員長通牒(由良要塞司令部経由)  
六月六日附都徳發第六三號ニ係ハル首領ノ件ニ関シテハ  
左記條件ノ下ニ許可セラレタルニ付依命通牒ス

左記

一、騰寫ハ由良要塞司令部ニ於テ責任者監督ノ許ニ行  
フコト

二、騰寫現示ノ程度其ノ他ハ由良要塞司令部ニ就キ指  
導ヲ受クルコト

三、調製部數ハ五部トシ用済後返納スルコト

一 陸普第三七八一號 昭和十年七月三日

能樂協會ノ五流、梅若、淺見ニ依リ四月廿七日ヨリ五月一日ニ至ル五日間正  
午ヨリ午後四時乃至五時ニ至ル間能樂堂ニ於テ奉納シ連日盛況ヲ極メタリ  
四能樂堂ニ於ケル夜ノ演藝



屋組合、柳橋藝妓屋組合、松竹奉納ノ各種演藝ヲ五日間ニ互リ午後六時半ヨ  
リ午後九時半乃至午後十時ニ至ル間實施シ連日多数ノ観覧者ヲ收容シ盛況ナ

陸普 副官ヨリ由良要塞司令官ハ通牒

都市計画徳島地方委員會ヨリ出願アリタル首題、  
并、関シテハ大体貴見ノ通り許可セラレタルモ尚左記ニ依  
り指導相成度依命通牒ス

左記

- 一、謄寫現示ノ程度ハ昭和七年二月陸密第三六號ノ内規ノ程  
度トセラレ度
- 二、調製圖ノ期間ヲ定メ返納セシムルコト
- 三、調製圖ノ秘密ノ取扱ヲ為サシメ其ノ保管ハ陸軍機  
密(密書類取扱規則ニ準據セシム

陸普第三七八二號 昭和十年七月三日

陸軍









真高方記  
町目畫  
町目畫  
町目畫

一、町目的  
町目畫  
町目畫

二、謄寫地圖名  
秘密地圖(由良要塞近傍)  
事上支斷

三、縮  
撫養町、板東、堂浦、鳴門海峡  
事上支斷

四、現示程度  
道路、鐵道、河川、池沼及水路  
事上支斷

五、町界及大字界  
御許可、日ヨリ十日以内  
事上支斷

六、謄寫期間  
御許可、日ヨリ十日以内  
事上支斷

七、調製部數  
拾部  
事上支斷

但、高低起伏一切現示セサルモノトス

町目畫  
町目畫  
町目畫

町目畫  
町目畫  
町目畫



町目畫  
町目畫  
町目畫



町目畫  
町目畫  
町目畫







陸普

省ヨリ都市計画大分地方委員会(大分縣)へ通牒  
七月二十九日附都第<sup>一</sup>八三號提出ノ首頭<sup>ノ</sup>件  
檢閲ノ結果支障無之候

陸普第四六三五號

昭和十年八月十九日

ル者亦多數ニ上リタリ

七花

火

廿六日ヨリ五月一日ニ至ル六日間近歩一堤上(ニ打上)花ヲ實施セリ



防備

陸軍省 領 壹第二三八八號

都第一八三號

昭和十年七月二十九日

都市計畫大分地方委員會

陸軍省

御中

地圖檢閱願

別紙津久見都市計畫圖及佐伯都市計畫圖ヲ陸  
地測量部ニ依頼シ各四百部印刷致度候條御認  
可相成度候也

一〇、一一七陸軍省一七四号、ラ

送付、え、ラ 檢閱、有、控、出

都市計畫大分地方委員會





國

防備

久米

陸軍省 第三三八八號

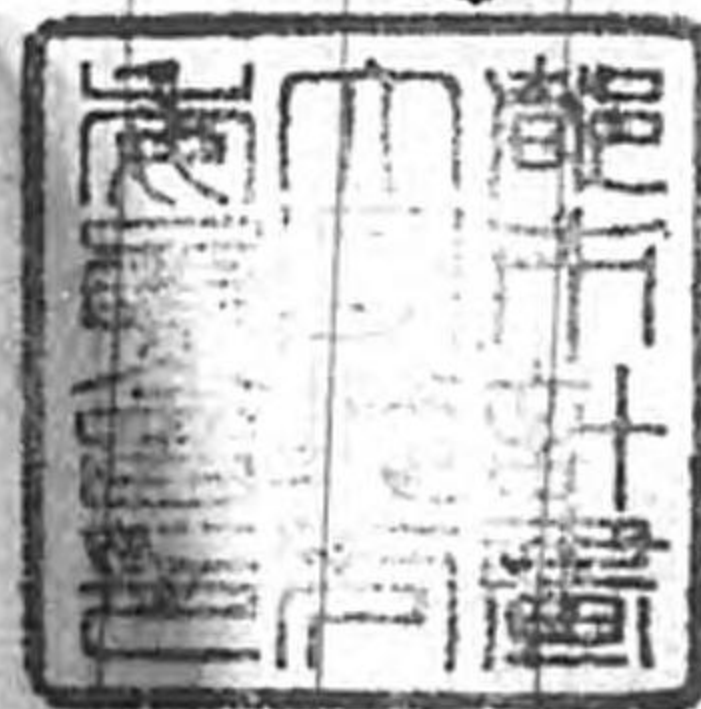
都第一八三號

昭和十年八月三十一日

都市計畫大分地方委員會

陸軍省

御中



客月二十九日都第一八三號津久見都市計畫  
 圖及佐伯都市計畫圖檢閱願ニ對シ本月十九  
 日陸軍省第四六三五號ヲ以テ支障無之上旨御通牒  
 二接シ候處右願書ニ添附セシ圖面各一葉ハ陸地  
 測量部ニ返送ヲ要シ候條甚々御手數右御返  
 付相成度此般及照會候也

輕微事項ニ付之課了直搦委々令宛  
 處置セリ  
 軍務局防備課

都市計畫大分地方委員會







陸普

内務大臣、同答

九月十日附内務省發土第五五號首題、  
件承認ス

追テ別圖返却ス

陸普第五三七六號 昭和十年九月廿三日



願ニ興行中強對ニ善報懸ノ念キ出サシムル子ノハ中出サシムル又長國料不備

前府ニ對シ興行又難事ノ外表答キシテ全難ノ事論ニ出サシムル又憲兵又掛員遊

十二枚紙ノ興行又難事





内務省發土第五五號

昭和十年九月十日

陸軍大臣殿

内務大臣

陸軍大臣殿

廣島港修築工事平面圖複寫ニ關スル件

當省ニ於テ事務上必要有之別紙廣島港修築工事平面圖ヲ複寫致度見込ニ候條御承認相成度宇品港域軍事取締法第十五條ニ依リ及協議候

追テ本圖面必要ノ場合ハ複寫ノ上送付可致ニ付御申越相成度



57-5611

土本  
三本  
17  
防備課

内務



保存期限

決裁指定

決行指定

牛島

次官

政務次官回付 決裁前後連帶軍事課

決行(決裁)後  
回覽課名

受領番號 壹肆第  
件名 秘密地圖謄寫ニ關スル件  
起元廳(課)名 鐵道省

大臣 委

政務次官  
局長 主務

高級副官

參與官

書記官

審案  
筆記者

主務副官  
主務課員

局長

課長

主務局長  
受領 昭和 年 月 日  
提出 昭和 年 月 日

大臣官房  
受領 昭和 年 月 日  
了結 昭和 年 月 日

秘密第一四號

決行(決裁)後  
覽回

局長

局長

課長

課長



永久甲

311

陸軍



陸普 副官ヨリ鐵道大臣官房文書課長へ通牒

八月二十九日附鐵軍秘第二三號ニ係ハル首題ノ件ニ関  
ス  
コテハ左記條件ノ下ニ承認セラレタルニ付依命通牒

左記

- 一 騰寫ハ舞鶴要塞司令部ニ於テ責任者監督ノ許  
ニ行フコト
- 二 騰寫現示ノ程度其ノ他ハ舞鶴要塞司令部ニ就キ  
指道ヲ受クルコト
- 三 調製部數ハ最少限トシ用濟後返納スルコト

陸普第五一八八號昭和十年九月十六日



陸普

副官ヨリ舞鶴要塞司令官へ通牒

九月七日附舞要司令第四七號ニ依リ副申アリタル首題ノ件別紙寫ノ通承認セラレタルニ付左記ニ依リ之カ指道守相成度依命通牒ス

左記

一 謄寫現示ノ程度ハ昭和七年二月陸密第三六

號ノ内規ノ程度トセラレ度

二 調製図ハ期間ヲ定メ返納セシムルコト

三 調製図ハ秘密ノ取扱ヲ為サシメ其保管ハ

陸軍機(秘)密書類取扱規則ニ準據セシム

陸普第五一八八號 昭和十年九月十六日





防備

舞要司甲第四七號

一五五三

秘密地圖謄寫

昭和拾年九月七日

舞鶴要塞司令官菊池門也

陸軍大臣川島義之殿

別紙ノ通鐵道大臣官房文書課長ヨリ申請アリ

タルニ付副申ス

副申

本區域ハ小濱五丁分ニ秘密地圖ナルモ別紙  
要圖ノ如ク當要塞地帯區域外方ニシテ國防  
上支障ナキモノト認ム

別圖  
當課ニ保存ス  
印者務注  
防備課  
十月二日

陸軍省  
昭和十年九月九日  
大藏大臣官房  
防備課

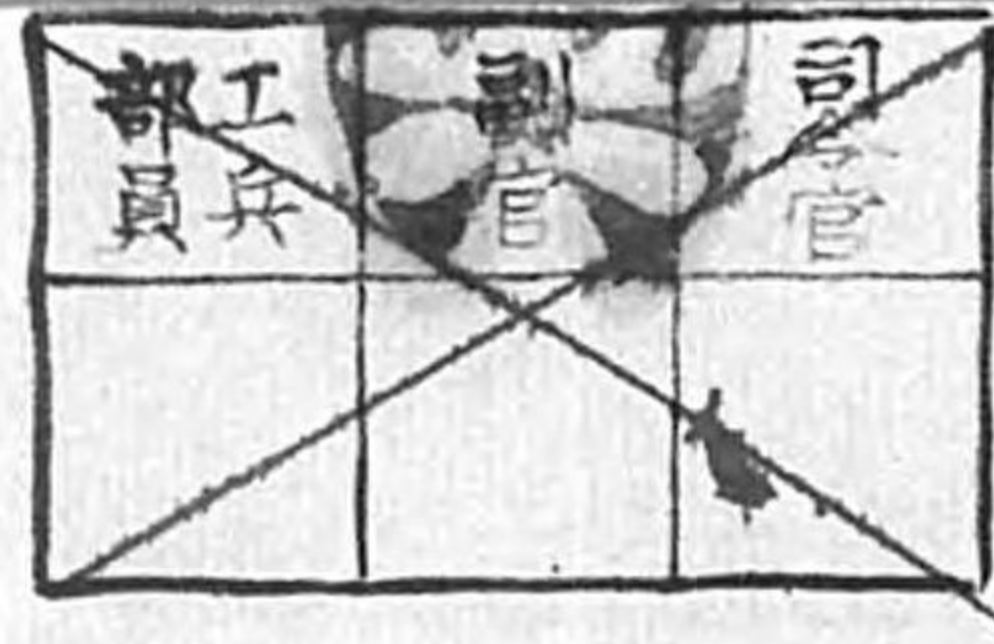
陸軍省  
昭和十年九月九日  
防備課

軍



秘

防備



陸軍省領 壹第 二五二七 號  
（舞鶴要塞司令部經由）

鐵軍秘第二三號

昭和十年八月二十九日

陸軍大臣殿

鐵道大臣官房文書課長

秘密地圖謄寫ノ件

當省米子建設事務所所管鐵道建設工事ノ線路調査上必要有之候ニ付豫テ貴省ヨリ借用ノ左記秘密地圖中一部分（縮尺五萬分ノ一、壹部、縮尺五千分ノ一、壹部）謄寫致度候條御承認相成度候

追而該地圖ハ目下米子建設事務所ニ保管セシメ居候間同地最寄ノ司令部ニ於テ謄寫ノコトニ致度





記

一、舞鶴要塞近傍

小濱、五萬分ノ一、秘天第一七五號

（福井縣遠敷郡奥名田村口坂本ヨリ白屋、小和田ヲ經テ棚橋ニ至ル道路ニ於テ口坂本ヲ去ル約一杆ノ地點ヨリ道路ニ沿ヒ棚橋ヨリ山麓ヲ迂回シ納田終、中野ヲ經テ東南ニ進ミ福井縣遠敷郡奥名田村棚橋ヨリ京都府北桑田郡鶴ヶ岡村熊壁ニ至ル道路ノ棚橋ヲ去ル一杆ニ於テ右曲シ縣界ニ於テ該道路ヨリ西方約五〇〇米ノ地點ヲ經テ熊壁ニ至ル熊壁ニ於テ右曲シ福居、庄田ヲ經テ田土ニ至ル道路ニ沿ヒ庄田ヲ去ル三〇〇米ノ地點間巾左右約三〇〇米ノ區間）

以上







